

医ケア児の災害時情報共有について

2023/09/07 医ケア児者協議会資料
静岡済生会総合病院 小児科医 塩田 勉

災害時における、迅速な情報共有をすることは、喫緊の課題である。

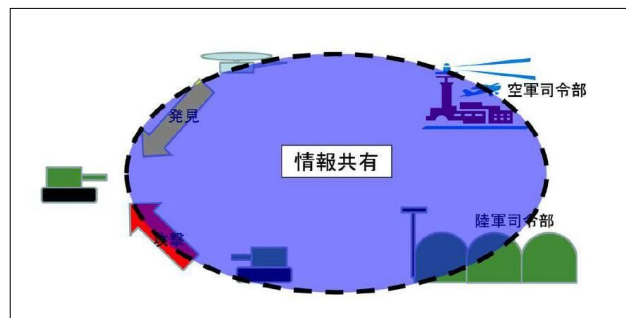
- ① **当事者自ら：** 自らの状態・管理について支援者に伝えるツールを持っておくこと

→ 「ケア手帳」「医ケア児者カード」「個別避難計画」のような、アナログなものも有効

- ② **支援者同士：** こちらも迅速な情報共有が大事で、支援に直結する

→ 支援者同士は一堂に会することが難しいので、ネットベースの形がより有用
現状では、LINE WORKS のネットワークを広げていくことが一つの方法

“Network Centric Operation”



※ LINE WORKS の無料プランは、2024 年 9 月からは、上限ユーザー数が 100 人→30 人に変更

- ③ **当事者と支援者をつなぐツール：** グループ LINE や ML など多数が存在

→ 今後も、現在機能しているものを引き続きうまく活用していく

→ 市内の当事者を網羅的に把握するツールがあると、より一層効率的に対応が可能になる

安否確認システム 例) 安否コール・ANPIC・セコム・インフォコム・NTT など

※ 浜松市や各会社組織の事例もぜひ参考 市内全体での対応と合わせて要検討